

1 研究主題

「わかる・できる喜び」を味わわせる授業の創造
 —基礎的・基本的な事項の確実な定着と言語活動の活性化を図る課題解決学習のあり方の研究—

2 研究主題について

本校では、「確かな学力」の育成に視点をあてて研究を進めており、授業の充実が図られ、生徒も落ち着いて授業に取り組むようになってきている。しかし、基礎的・基本的な内容の定着が不十分であるために、生徒が進んで発表したり、主体的に活動する場面が少ないという面も依然として見られる。

そこで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指した授業の更なる充実、生徒が目的意識を持って活動する場の設定や指導の在り方、話し合いや発表というような言語活動の充実、そして、それを支える学業指導や個に応じた指導の充実についての研究・実践をより進めていくことにした。これにより、生徒は基礎的・基本的な事項を身に付けるとともに、「わかる・できる喜び」を身に付けることができるのではないかと考えた。

※ 新学習指導要領(総則)の重要事項として次のようなものがある。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること。
- ② 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決すること。
- ③ 解決のために必要な思考力、判断力、表現力を育むこと。
- ④ 主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実を図ること。
- ⑤ 生徒の言語活動の充実を図ること。

また、各教科の指導にあたっての留意点として次のものが挙げられている。

- ① 生徒の判断力、指導力、表現力を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習指導を重視すること。
- ② 言語に関する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境の整備と生徒の言語活動の充実を図ること。
- ③ 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視すること。

3 研修の全体構想

《学校教育目標》「生命に深くこだまする明和中の生徒を育てる」
 心身共に健康で、確かな学力と豊かな感性を身に付け、主体的に活動する生徒の育成—

【重点課題】 ～生徒自らが気づき、考え主体的に行動する学校の創造～
 確かな学力の育成 心の教育の充実 生徒指導の充実 特色ある開かれた学校づくりの推進 中小・地域連携



【研究主題】 「わかる・できる喜び」を味わわせる授業の創造
 —基礎的・基本的な事項の確実な定着と言語活動の活性化を図る課題解決学習のあり方の研究—
 [研修による重点課題の具体化]

生徒の実態の把握と全校態勢の確立

- 学力向上委員会の充実
- 各種評価の実施と分析、改善策の検討（学力、学習状況、意識、生活実態）

授業の充実

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着（目標の明確化、定着の場の設定、宅習課題の充実）
- 自ら課題を見だし、解決する授業の充実（発表や活動の場の設定、言語活動の充実）
- 研究授業の計画的実施（外部講師の招聘）

学業指導の充実

- 授業の基本的な態の定着
- 家庭学習の習慣化の推進
- 学び方の指導の充実（教科学習の仕方、テスト対策の方法、学び方タイム）

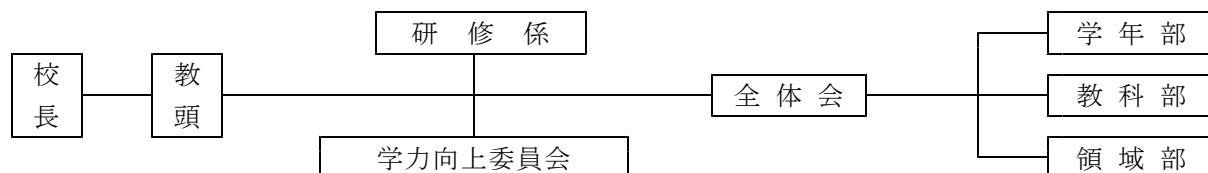
個に応じた指導の充実

- 少人数指導、習熟の程度に応じた指導、TT指導の充実
- 学業相談の充実、授業外の個別指導の充実
- 生徒の特性に応じた特別支援教育の実践と事例研究

(教科領域等研修)

- 生徒指導に関する研修
- 特別支援教育に関する研修
- 人権同和教育に関する研修
- 教育相談に関する研修
- 健康相談に関する研修
- 教科経営に関する研修
- 情報教育に関する研修
- 教育評価に関する研修
- 教育課程に関する研修
- 総合的な学習の時間に関する研修
- 学校ICTに関する研修

4 組織



5 23年度の研修計画

月	日	曜	研修項目	主な研修内容	講師	担当
4	11	月	研修テーマ及び年間計画	テーマ及び年間計画の確認		研修係
5	9	月	生徒指導	家庭訪問後の共通理解事項の確認		生徒指導部
			特別支援教育	年間計画の確認, 1学期の方針等		特別支援教育係
5	13	金	小中連携研修会に向けて	領域ごとに現状, 課題・提案者の確認		研修係
6	6	月	小中連携研修会	※23年度は中学校会場		研修係
7	13	水	研究授業(研究公開)	社会科公開授業	○	研修係・教科部
7	21	水	標準学力検査の分析の提案	分析内容の連絡と次時の確認		学力向上委員会
			生徒指導	不登校及び不登校傾向の生徒への対応策	○	生徒指導部
8	2	月	健康教育	救命救急講習	○	保健係
			特別支援教育	ADHD, LDに関する研修 特別支援教育の在り方		特別支援教育係
8	20	金	情報教育	パソコン研修	○	情報教育係
			標準学力検査の分析報告及び 学力向上	教科ごとの分析結果の報告及び2学期以降の学力向上に向けての共通理解		学力向上委員会
8	31	水	性教育	性に関する教育について	○	保健係
9	5	月	生徒指導 (特別支援教育を含む)	1学期以降の生徒の変容について		生徒指導部 特別支援教育係
10	3	月	研究授業(道徳:1年部)		○	道徳部
11	7	月	人権同和教育	日常生活における人権意識の向上	○	人権同和教育係
11	21	月	研究授業(学活:2年部)	性教育	○	特活部
1	16	月	特別支援教育	本年度の反省と次年度へ向けて		特別支援教育係
2	6	月	本年度の研修の成果と課題	次年度のテーマ及び取組の確認		研修係

6 本年度の実践

(1) 本校の学力の実態把握

- ① 基礎基本定着度調査の分析と各教科の具体策の検討(4月)
- ② 標準学力検査(NRT)の分析の仕方についての研修の実施(8月)
- ③ 標準学力検査(NRT)の分析と具体策の検討(8月下旬)
NRTの分析を基に, 2学期からの学習指導に対する具体的な取り組みを各教科や学年毎に話し合った。

(2) 学力向上委員会の役割

- ① 開催日 - 適宜設定
- ② 構成 - 校長, 教頭, 学年主任, 学業指導係, 研修係, 教科代表計7名
- ③ 内容 - 学力に関する現状と課題・解決策の協議, 実践化に向けての具体策の検討
・ 学力の実態分析について

- ・ 家庭学習に関するアンケート分析
- ・ 学び方タイムの進め方について
- ・ 各教科・学年の取り組み事例の検討
- ・ 共通実践事項について等課題と解決策の協議

- 【成果】
- ・ 様々な立場からの意見をもとに課題を明らかにし、実践への方向づけができた。
 - ・ 学力に関する情報提供をすることで、学力向上に対する職員の意識も高まった。
 - ・ 事前に打ち合わせをすることによって、会の内容が充実していた。

(3) 学び方を身につけさせる指導

① 授業の基本的な躰の定着

ア 年度始めに、授業中の基本的な約束について共通理解を図り、実践に取り組んだ。

イ 学力向上推進委員会で、まずは小さな共通実践が学力を高める第一歩であると考え、授業の始まりや終わりの行動の在り方について再確認等をし、共通理解・共通実践を図っている。

② 家庭学習の習慣化の推進

ア 毎日の家庭学習の目標（1・2年→2時間、3年→3時間）

イ 3点セット、4点セットの提出（生活の記録、英語の宅習、漢字練習）

③ 学び方の指導の充実（教科学習の仕方、テスト勉強の仕方、学び方タイム）

ア 「学び方タイム」（年間3回）の設定と充実

学級活動の時間に、学業指導の時間「学び方タイム」を3回設定した。

主な内容は以下の通りである。生徒の実態に即して内容を検討した上で実施している。

	1 年	2 年	3 年
1	学 習 の 仕 方 を 学 ぶ		
2	家庭学習の仕方を学ぶ	苦手教科の克服をする	家庭学習について考える
3	テストの予想問題をつくる	厚物の活用の仕方を考える	入試に向けての取り組み

(4) 授業での実践

① 基礎的・基本的な内容の確実な定着

- ・ 各教科で学習目標を必ず板書するよう共通理解し、学習過程に定着の場を位置付けたり、宅習課題の出し方について共通実践を図ったりしている。

② 生徒が自ら課題を発見し、解決する授業の充実

- ・ 各教科で指導過程を工夫したり、発表や活動の場を設定したりしている。

③ 研究授業の計画的実施

- ・ 全職員による研修を推進するために、研究授業の日は5時間授業で生徒は下校させ、6校時に研究授業を設定し、放課後授業研究を実施した。

ア 社会科研究授業（3年）・・・7月13日(水)実施

主 題 名 「議会制民主主義と国会」

指導内容 ・国会の地位を理解し、議会制民主主義の意義について考える。

・国会のしくみについて、二院制と衆議院の優越を中心に理解する。

④ 個に応じた指導の充実

ア 少人数指導、TT指導の充実

(ア) 習熟度の程度に応じた指導(2・3年英語)

全時間2クラスを2コース、または1クラスを2コースに分け、少人数でそれぞれ指導

- ・ 基礎基本コース、総合コース

《コースの決め方》

生徒・保護者の希望をもとに決定するが、必要に応じて担当教師も相談を行う。途中でコースを替えることもできる。

(イ) 少人数指導(3年数学)

一斉授業で単元に入り、主としてTTで授業を進める。しばらくして、1クラスを等質半分に分け、授業を進めながら、助け合い学習の形態で進めていく。

(ウ) TT(チームティーチング)

- 理科・・・実験を中心に実施。1年は週3時間、2年は週4時間実施

- 数学・・・2年生で実施。各学級週2時間

【成果】 ・ 習熟の程度に応じた指導、少人数指導等を実施し、個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。

- ・ 生徒の習熟の程度に応じた指導を実施し、生徒の学習に対する意欲も深まり、真剣に取り組む生徒が増えた。

- ・ 理解不足の生徒に対して、時間をかけて指導でき、授業への集中力や意欲が増してきた。

- ・ 理解の早い生徒やコースは、応用的な問題にも取り組ませた。
 - ・ 少人数による指導で、発表や活動の機会が増え、生徒が学習に意欲的に取り組み、集中するようになった。
 - ・ T Tは授業を二人の教師で指導するので、机間指導や実験等でのきめ細かな指導ができるようになった。
- ⑤ 学業相談の充実
- ・ 学び方タイムでの個別相談の実施
 - ・ 定期的な教育相談の実施 1 学期(5 時間)、 2 学期(5 時間)
 - ・ 数学科の習熟の程度に応じた指導のコース選択や選択教科のコース選択等においては、随時相談を実施
- ⑥ 授業時間外の個別指導の充実
- ・ 始業前、昼休み、放課後等に随時個別の指導に当たっている。
 - ・ 学年で期間を決めて、放課後に定着の不十分な生徒の指導を分担して行っている。
- ⑦ 授業についての教師の自己評価と生徒のアンケート、外部のアンケートの実施
- ・ 教師の授業改善と生徒の学習への取り組みの改善を図るために、全職員の自己評価、全学級のアンケート、各教師 1 クラスのアンケートを毎学期実施している。また、P T A 役員、学校評議員によるアンケートも年 1 回実施している。教師が自分の授業の改善の視点を得る上で有効である。

7 今後の課題

- (1) 教師・生徒を対象に実施した授業に関する評価やN R Tの分析の結果や定期テストの結果をもとに、生徒が積極的に授業へ取り組めるような指導の改善・工夫をしたい。
- (2) 評価後の分析と手立てを工夫することによって、評価と指導の一体化を図りながら、基礎・基本の定着や生徒自ら課題に取り組ませるために、わかる喜びを味わわせる授業の更なる充実を図りたい。
- (3) 生徒の学習意欲を高め、活気のある授業をつくる工夫が必要である。
- (4) 職員研修の時だけの話し合いで終わらないようにするために、教科や学年、係会等で具体化への話し合いをし、共通理解事項を組織的に実践できるようにしたい。
- (5) 教科部会の充実を図り、指導内容や指導方法等について研究し、お互いの授業力を高める取り組みを推進したい。